

中病だより

島根県立中央病院
2017年5月第29号

新年度特別号

新病院長からのごあいさつ 病院長 小阪 真二

新年度・新任のごあいさつ

副院長・医療局長・看護局長・薬剤局長・医療技術局長・事務局長・
医療局次長・各診療部長・各診療科部長・新任医師

新設科「肝臓内科」「臨床腫瘍科」のご紹介



ご自由に
お取りください

無料

表紙写真 今年度は、新しく医師・歯科医師として踏み出した18名の初期臨床研修医・初期臨床研修歯科医が入職しました。4月3日に辞令交付式を行い、病院長から「頑張ってください」の言葉と共に辞令書が手渡されました。

も く じ

新 病 院 長 から の ご あ い さ つ
病院長 小阪 真二 ②

副 院 長 ・ 各 局 長 から の ご あ い さ つ
副院長 齊鹿 稔 ④

副院長 伊東 康男 ④

副院長 木村 清志 ④

医療局長 徳家 敦夫 ④

看護局長 池田 康枝 ⑤

薬剤局長 山森 祐治 ⑤

医療技術局長 角森 正信 ⑤

事務局長 新田 典利 ⑤

臨床腫瘍科・肝臓内科 新設のお知らせ

臨床腫瘍科部長 川上 耕史 ⑥

肝臓内科部長 三宅 達也 ⑥

新 ・ 診 療 科 部 長 の ご あ い さ つ

総合診療科部長 今田 敏宏 ⑦

神経内科部長 青山 淳夫 ⑦

外科部長 金澤 旭宣 ⑦

呼吸器外科部長 阪本 仁 ⑦

手術科部長 小笹 浩 ⑦

集中治療科部長 北野 忠志 ⑧

地域医療科部長 増野 純二 ⑧

医療局次長・診療科部長・その他の診療科部長
からのごあいさつ ⑧

新任医師からのごあいさつ ⑩

1年次初期臨床研修医のご紹介 ⑪

お役立ち情報コラム 減塩のコツ ⑫

外来診療表＜一般・初診＞ ⑫

新病院長からのごあいさつ 病院長 小阪 真二

平成29年4月1日付けで病院長を拝命いたしました。

京都大学医学部を卒業し、1986年6月から呼吸器外科を専攻して約31年が過ぎました。大学院時代、フランス留学時代を除くと、初めての赴任地である高知にはじまり31年のうち約25年を中国四国地方で勤務しています。1998年に出雲に来て呼吸器外科を開設してからも足かけ19年を超えました。生まれて大学進学まで暮らした大阪の次に長くなり、第二の故郷というのにふさわしい土地になっています。

呼吸器外科医でありながら、1999年の島根県立中央病院が全国に先立って導入した電子カルテに出会ったことにより、高知医療センターではパッケージ電子カルテのカスタマイズを行い、また、診療情報のあり方に興味を持って、診療情報管理士の資格も取りました。その縁から平成22年からは当院の情報システム管理室長として、当院の第三世代IIMSへの移行、しまね医療情報ネットワーク協会への参加、『まめネット』の構築・普及等の仕事をしてきました。現在の医療・病院における情報のあり方、利用の仕方を考える機会を持ったことは幸運であったと感謝しております。

さて医療の現状についてですが、高齢化が進み医療需要が増加する中、医療費は増加の一途をたどり、国民皆保険制度を維持するためには、ある程度医療費の増加を抑制することが必要となっています。そのため、各都道府県において地域医療構想が作成され、県域の中での医療機関の機能分化と役割分担が考えられています。医師の地域偏在、診療科偏在など、現在島根県が抱える問題は数多くありますが、このような医療情勢の中で島根県立中央病院はどのような病院を旨とするのか。存在意義を問われていると思います。

まずは、自治体病院の使命である地域に必要な医療を公平・公正に提供することに力を尽くしていきたいと考えています。現在の医療制度の中では、医療機能分担もあり、すべてのサービスを県立中央病院だけで提供することは困難になってきています。しかし、ドクターヘリの基地病院であり、救急救命センターであることにより高度急性期・急性期医療を担うことはもちろんですが、医療者不足により地域の医療資源が少なくなっている事もふまえて、地域包括ケアに病院の専門性の高い医療の一部を提供し、よりよい地域包括ケアの構築のお手伝いをするなど、制度の中で可能な限り県民が必要とする医療を提供する所存です。

次には、患者中心の医療を推進したいと考えます。病院内でのチーム医療をより強化し、また地域完結型医療を推進するために、院外の各職種と医療連携を進めていきたいと考えています。現在、電子カルテシステムにより病院内での各種医療職の情報共有は当たり前になってきました。しかし、病院完結型医療から地域完結型医療へ移行するにあたって、患者さんに安心して地域へ帰っていただくためには、病院内と同じような情報共有が地域でも行える必要があります。幸い島根県には全国的にも注目されている医療情報連携ネットワーク『まめネット』があります。『まめネット』を活用して、地域の医療者と繋がりながら、地域中核病院としての役割を果たしていこうと思います。

最後に、地域医療を支える医療者を育てていきたいと考えています。来年度より専門医制度も始まる予定ですが、高齢の患者さんは、どうしても複数の疾患を抱えることが多く、専門的な医療をするにも、併存疾患、全身状態を的確に把握する必要があります。専門医になるにしても総合医的な能力を持たないと、今後増えていく高齢者の医療は担えないと思います。そういう意味で総合的な医療能力を備えた医師を養成したいと考えています。

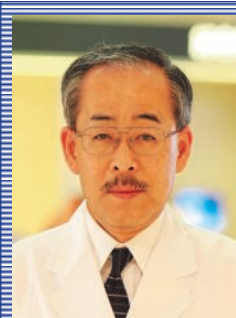
また、これからの地域医療を支える医療者は、エビデンスに基づく医療はもちろんですが、地域で暮らす患者さんの周囲環境も含めた人生の物語を考えつつ、ナラティブな医療を旨とすることはできません。病院で疾患が治る時代は、患者さんの人生設計を少し中断してでも疾患の治療をめざせばよかったのですが、慢性疾患を持った高齢の患者さんを支える医療をするためには、患者さんの人生の物語に敏感になり、患者さんの人生に寄り添った医療が必要でしょう。そのためには医療者そのものが感受性豊かで、いろいろな人生の物語を理解できる必要があると思っています。

最後に、私の好きな言葉に「帝網重々主伴無尽」という仏教の言葉があります。神がいる宮殿の周囲にたくさんの真珠がついた網があり、真ん中のろうそくの光でそれらの真珠が輝いて見え、輝いた真珠がとなりの真珠を写すことにより、それぞれが輝いて、全体が一体となり、燦然と輝いているということです。

島根県立中央病院が地域の医療を輝かせ、またその輝いた地域の医療により中央病院がより輝けるような関係を構築することをめざしてがんばりたいと思っている次第です。



副院長・各局長からのごあいさつ



副院長(入退院支援・地域医療連携センター長)
齋鹿 稔

わが国では少子高齢化の急速な進展に伴って医療需要が急激に拡大する中、公的医療保険制度を持続可能なものにするため、「病院完結型医療」から「地域完結型医療」への転換が始まっています。島根県の基幹病院として三次救急医療機能を担っている当院での急性期医療が終わった後に、患者さんが安心して地域で継続医療を受けていただくには地域の医療機関・訪問看護・介護関連機関などとの連携が非常に大切と考えています。そこで、平成27年4月から「入退院支援・地域医療連携センター」を開設して、看護師・社会福祉士・薬剤師・医事課などの多職種が協働して、患者さんの退院後の生活を見据えて入院前から患者さんに寄り添いつつ、安心して地域に帰っていただくために患者さんやご家族の理解を得ながら地域医療連携を進めています。また、「地域医療支援病院」として研修会・講演会などを通じて、地域の医療職の皆様と交流を深めていこうと考えています。



副院長(内分泌代謝科部長)
伊東 康男

副院長に就任して2年が経過しました。副院長の仕事として、主として医療安全を担当してきました。医療の現場では、常に有害事象が発生する危険性ははらんでいます。また医療事故は、誰にでも起こりますし、人は誰でも間違えます。個々人の注意だけでは限界があります。そこで医療事故を防ぐためには、チームや組織全体のあり方を改善しなければなりません。中央病院においても、医療安全推進室を中心に、各部署にリスクマネージャーを配置し、医療事故の未然防止や、再発防止に向け様々な取組を行っています。医療安全の確保にこれで完璧はありませんが、今後も県民の皆様が安心して、医療を受けられる病院、職員が安心して働ける病院をめざして取り組んでいきたいと考えています。もちろん診療面では、内分泌代謝科医師として、今まで同様頑張っていきますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



副院長
木村 清志

中央病院は島根県の基幹病院であり、県の医療政策上重要な役割を担っています。その中に「島根県代診医派遣制度」等の地域医療支援があり、私は代診医として県内の公立診療所等で年間40～50日診療しております。尚、中央病院での外来診療は総合診療科で週1回行っています。また、私は県・健康福祉部の医師確保対策室にも在籍しております。室は関係諸機関と連携して、医師を「呼ぶ」「育てる」「助ける」の3本柱で県内医師の充足を目指す事業に取り組んでいます。さて昨今、医学は目覚しく進歩し、それによって専門分化が進み、病院によっては診療科が増え、従来より多くの医師が必要となりました。中央病院におきましても、20数名の初期研修医を含めた若手医師を育成しながら、新たな医師を呼び込む必要があります。今後も、中央病院の診療体制の充実にてできる限り力を尽くそうと思っております。中央病院がこれからも皆様から信頼される病院であり続けるよう私も精一杯頑張りますので、今後ともよろしくお願ひいたします。



医療局長(医療安全推進室長/眼科部長 事務取扱)
徳家 敦夫

この度4月1日付で医療局長を拝命いたしました。私は医師になって32年になりますが、この間の医療技術の進歩は目覚ましく、私の専門である外科においても、お腹を大きく開けて機械といえば電気メスぐらいで手術を行っていたのが、今では内視鏡手術が多くを占め、小さい創で痛みも少なく、患者さんにとって優しい治療が行えるようになりました。当院の医師たちは、昨今の医師不足の中にあっても、医療技術の進歩に遅れないよう日々努力を重ねております。また、当院はこれまでも臨床研修病院として重要な役割を担っており、来年度から始まる新しい専門医制度に対応すべく関係機関との連携を密にし、地域に根ざした医療を行う優秀な医師の育成に努めます。今後も看護局をはじめとして院内各部署とも協力し、患者さん中心の医療を進めます。今年度からは新病院長の下、オール島根の精神で地域の先生方とも緊密に連携し、地域完結型医療を推進してまいります。



看護局長
池田 康枝

新年度、病院組織は新体制でいよいよスタートをきりました。看護局では43名の新規採用者を迎え新人研修が開始となっています。各部署では真新しいユニフォームに身を包み、初々しい新人達が少し緊張した顔つきでOJTを受けています。それぞれの夢をめざして、責任感を胸に、患者さんに寄り添うプロとして大きく成長することを看護局は最大限のパワーで支援しています。私たち看護職は、患者さんの傍らで話を聴き、患者さん自身が治療を決めていくサポートをします。今抱えている辛い症状を和らげる手立てを一緒に考えます。患者さんが医師には言えないことを私たちが代弁することで、今後の治療をよりよい方向へ向けられるかもしれません。私たちは患者さんご家族にとって一番近くて相談できる医療者です。地域に求められる病院組織の一員として、もっともっと専門性を追求し、“ほんもの”のプロを目指します。よろしくお願ひいたします。



薬剤局長
山森 祐治

本年度4月1日付けで薬剤局長を拝命いたしました山森です。前年度までは医療局次長(救命救急診療部長および集中治療科部長、兼任)として医療局および救命部門の仕事に従事してきました。救命救急科の医師としての活動(もちろんドクターヘリにも乗ります)は引き続き行って行きますが、新たな役職を賜り薬剤局長としての職務に取り組んで行く所存です。当院の薬剤局には37名の薬剤師が配属されていますが、この人数で本当に数多くの職務を行っています。薬剤局が抱える問題としては、病棟薬剤業務の充実、医療安全、外来がん治療、臨床研究・治験管理室などの業務強化のための人員要求、医薬品購入費の削減、など数多くあると聞いています。これらの問題を少しでも改善していけるように、いろんな場面で積極的に働きかけていきたいと考えています。また、薬剤師から他局、特に医療局の先生に意見がしやすい環境作りにも取り組んでいきたいと思っています。



医療技術局長
角森 正信

医療技術局は、島根県立中央病院が実践する高度・特殊・専門医療の支援部門となるべく、様々な医療職種を一元的に組織して平成5年に発足しました。現在は、放射線技術科(診療放射線技師)、検査技術科(臨床検査技師、視能訓練士)、栄養管理科(管理栄養士、調理師)、臨床工学科(臨床工学技士)、リハビリテーション技術科(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)、医療情報管理科(診療情報管理士)、歯科スタッフ(歯科衛生士)、心理スタッフ(臨床心理士)の6科2スタッフで構成し、12の専門職種と医療アシスタントの総勢130名が勤務しています。それぞれが国家資格や学会認定資格を持った職能集団ですが、その資格以外にも関連する様々な認定資格を取得し、学会や研修会にも積極的に参加して知識や技術の向上に努めています。患者さんにより良い医療が提供できるよう、異なる職種が其々の専門性を活かし、また相互に協力しています。




事務局長
新田 典利

皆さんこんにちは。事務局長の新田典利です。昨年4月に着任し2年目の春を迎えました。30年前に建て替え前の中央病院で勤務した経験があったことから縁を感じながらの赴任でしたが、現在の中央病院の規模、担っている機能に圧倒され責任の重さを実感したことが思い出されます。中央病院は、県の基幹病院として島根県全域を視野に入れた高度な救急医療や周産期医療などの政策医療を担っています。その点からは県民に対する医療提供の最後の砦として島根県全体の医療を支える使命を負った病院であるといえます。わたし自身は、病院事業管理者の下で県立2病院(中央病院・こころの医療センター)を統括する「病院局長」という立場も併せ持つてはいますが、中央病院が県民の皆さんに信頼される病院として円滑な病院運営が継続できるよう、事務局がコミュニケーションを大切にしながらしっかり貢献しなければならないと考えています。皆さんよろしくお願ひいたします。

臨床腫瘍科・肝臓内科を新設しました

平成29年4月1日より、「臨床腫瘍科」、「肝臓内科」の2科を新設しました（院内標榜）
これにより当院は院内標榜40科の体制となりました



新設科 臨床腫瘍科 部長 川上 耕史

この春から島根県立中央病院に新しく臨床腫瘍科が開設されました。私はこの臨床腫瘍科の部長になりました川上耕史と申します。どうぞよろしくお願いいたします。


とは言っても臨床腫瘍科という名前を聞いて、何をやる所なのかピンと来る人はほとんどいないのではないのでしょうか。この新しい科を知ってもらうために、臨床腫瘍学について少し話をさせてください。

現代はご存知のように多くの方ががんにかかる時代です。日本では昔からがんになると、できた場所に関わる診療科が治療を担ってきました。胃や腸のがんなら消化器科、肺がんなら呼吸器科、白血病なら血液内科、といった具合です。けれど生物学や腫瘍学の進歩によって、違う臓器にできるがんにも共通した性質がある事わかり、がんの性質を利用した新しい治療薬や治療法が登場するようになりました。

これらががんの性質に応じた治療戦略を立てるためには、一つの臓器の専門家ではなく、臓器を超えたがんの専門家が必要だと考えられるようになり生まれたのが臨床腫瘍学です。島根県でもこの分野での進歩を生かしたがん医療を進めていくために、臨床腫瘍科が開設されることになりました。

おおげさな話になりましたが、実際には私はがんを手術で取ることも、魔法のように消し去ることもできません。けれども、治療戦略の検討や、薬や副作用のマネジメント、暮らし方の提案などを通じて、各領域の医師や看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどと協力して、がんの治療をより安全に安心して受けられるものにしたいと考えています。

病院の中では主に外来化学療法室という場所で、通院しながら治療を受ける患者さんの薬物療法のお手伝いをしています。薬や治療のことだけでなく、痛みや生活の事など、どんなことでもお気軽にご相談ください。



新設科 肝臓内科 部長 三宅 達也

近年肝疾患診療はめざましく変化してきております。私が医師になったのが22年前になりますが、当時はB型およびC型肝炎ウイルス感染から肝硬変や肝臓へ進行した患者さんが頻繁に入退院を繰り返していた時代でした。その後、C型肝炎はインターフェロン治療の進歩で徐々に治癒率が向上していき、2014年からは内服の抗ウイルス薬を3か月飲むだけで実に95%の患者さんが治る時代になりましたし、B型肝炎は核酸アナログという薬の登場で、肝炎の進行を抑えることが可能になりました。多くの患者さんがその恩恵を受け、ウイルス肝炎の進行で入院する患者さんは減少していますが、今でも肝炎ウイルスに感染していることを知らない患者さん、知っていても適切な治療を受けておられない患者さんが数多く存在すると推測されており、肝硬変や肝臓になってから初めて受診される方もまだまだおられるのが現状です。また最近では、肥


満や糖尿病などの生活習慣病に伴う脂肪肝から肝硬変、肝臓へ進行する患者さんが増加していることも問題となっています。このような患者さんをいかに早期に発見し、適切に治療することによって肝臓の進行を防ぐかということが大きな課題となっています。

そのような背景から、島根県の肝疾患診療を充実させるために、本年4月より県立中央病院に肝臓内科が新設され、診療科部長に任命されました。着任前は、島根大学肝臓内科副科長として13年間肝疾患診療に携わり、昨年度までは浜田市のウイルス肝炎対策審議会委員として、10年にわたり県西部のC型肝炎患者さんの治療推進のために活動してきました。これらの経験を活かして、今後は県立中央病院で県内の肝疾患患者さんの診療に尽力する所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

新・診療科部長のごあいさつ


平成29年4月1日より、総合診療科、神経内科、外科、呼吸器外科、手術科、地域医療科の部長が変わりました






総合診療科部長 今田 敏宏

この度総合診療科の部長になりました今田敏宏です。私は中央病院で2年間研修した後に、島根県内の中山間地、隠岐諸島で総合内科医として地域医療に従事し、2008年から再び中央病院総合診療科で勤務しています。地域で勤務した経験を生かし、緩和ケアチームリーダーや地域医療連携センター長補佐も兼任しています。高齢化時代に対応した総合診療並びに総合医の育成、地域包括ケアの構築に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。



神経内科部長 青山 淳夫

この度神経内科部長を拝命致しました。神経内科は脳から手足の先まで張り巡らされている神経の病気を診る科です。脳の血管の病気や筋肉の病気も診ています。皆さんがご存知の病気としては、脳卒中、てんかん、認知症などがありますが、パーキンソン病などの難病も含め幅広い疾患の診療をさせて頂いております。神経の病気かなと思われた際には、是非お気軽に受診してみてください。神経の診察は時間がかかりますのでお待たせすることがあるかとは思いますが、皆様のお役に立てるよう丁寧な診療に努め、神経障害で生活の質が低下する患者さんを減らしたいと願っています。




外科部長 金澤 旭宣

平成29年4月より外科部長を拝命しました。我々は県の基幹病院の外科として、患者さんにとって最善の手術や治療を常に提供することにより、患者さんご本人、ご家族はもちろんのこと関係機関や病院スタッフにおいても信頼をさらに高いものとしていきたいと考えています。


一方、もう一つとしての役割である教育病院としての側面も大事にして、今後の医療を担う外科医師を育てていきたいと考えております。

これからも何卒よろしくお願いいたします。



呼吸器外科部長 阪本 仁

この度、呼吸器外科部長を拝命しました。平成15年から6年間、当院に勤務しましたので島根県に縁を感じますとともに、責任のある立場で身の引き締まる思いです。これまでの当科の実績通り、肺がん、気胸を中心とした呼吸器疾患手術を安全に行っていくこと、他科と連携し周術期を安全に過ごすことを継続します。さらに、胸部外傷や気管支鏡による治療にも引き続き取り組みます。微力ながら県民、医師会の皆様のお役に立てるよう精いっぱい努めてまいりますので何卒よろしくお願いいたします。



手術科部長 小笹 浩

これまで鳥取県立中央病院や島根大学病院で手術麻酔に携わってまいりましたが、このたびここで皆様と仕事させていただくこと大変光栄に思っております。近年、麻酔科に期待される役割は、高齢で合併症をお持ちの患者さんが増えたこと、手術法の進歩、術後の鎮痛等の患者さんのニーズの変化などに伴って大きく変わって来ております。その変化に応えるため、これから各方面の方々と相談しながらより安全・安心な麻酔を行えるよう努めて参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

**集中治療科部長
北野 忠志**

心臓血管外科医として19年間勤務し、平成26年より集中治療科の専従となり、このたび集中治療科部長を拝命しました。当院の集中治療室は12床あり、年間約900人の患者さんが入室されます。集中治療科は救命救急科と共に集中治療室に入室する内科、外科系を問わず、呼吸循環管理を必要とする重篤な全身疾患や大きな手術後の患者さんの治療と看護を、各診療科医師と看護師、臨床工学士、薬剤師などの多職種と協力して行っています。最善の治療が行えるようチーム医療の中心として、より一層頑張ります。

**地域医療科部長
増野 純二**

島根県立中央病院は地域医療支援にも力を入れています。総合診療科と協力して、地域医療についての教育をはじめ、診療応援などにも積極的に関わっています。中央病院内の地域医療科医師は、複数の診療科で、県民に対して公正かつ普遍的な医療サービスを提供するために日々研鑽しています。年二回「定例会」を開催し、各地域における種々の情報を交換し、地域医療充実のための方策を検討しています。臨床教育・研修センター長補佐も兼任しており、人材育成からも、地域医療に貢献してまいります。

医療局次長・診療部長・
その他の診療科部長からの
ごあいさつ

**医療局次長
松原 康博**

救命救急科としての診療の他、広報、医の倫理、保険医療適正運用等を担当しています

**医療局次長
森山 政司**

化学療法・緩和ケア・がんパス・キャンサーボード・がん登録等のがん診療を担当しています

**医療局次長/腎臓科部長
金 馨根**

透析、腎不全、腎疾患治療の分野で地域医療に貢献していきたいと思っております

**中央診療部長
高下 成明**

私は肝臓を専門に診療しています。県民の皆様、安全で安心の置ける検査治療を提供します

**内科診療部長/
循環器科部長
小田 強**

心血管病に対する急性期～慢性期治療・再発予防を通じて、多職種によるチーム医療を実践しています

**外科診療部長/
心臓血管外科部長
山内 正信**

今後は、自科だけでなく、病院全体のために貢献したいと思います。よろしくお願いいたします

**皮膚感覚器診療部長/
歯科口腔外科部長
尾原 清司**

細かい領域で、繊細・高度な医療を提供している「匠集団の診療部」です。安全・安心な医療をお届けします。

**救命救急診療部長/
麻酔科部長
越崎 雅行**

今年度も救命救急診療部門を通じ、地域の急性期医療の一翼を担いたいと思っております

**母性小児診療部長/
産婦人科部長
栗岡 裕子**

赤ちゃんが無事に生まれ、そして大人になるまでの生育を助ける事を担当しています

**リハビリ科部長
永田 智子**

院内他部門と協働し、地域とつながる患者さん第一の安全で効果的なリハを提供します

**放射線科部長
児玉 光史**

一般撮影と持ち込みデータの読影を再開しました。早く正確なレポート作成を目指します

**放射線治療科部長
黒田 寛**

医師2名で放射線治療を担当しています。患者さんに親身な診療を心がけています

**内視鏡科部長
宮岡 洋一**

内視鏡科の宮岡です。親切、丁寧、確実な内視鏡検査、治療を提供させていただき所存です

**検査診断科部長
若山 聡雄**

輸血、検査室の責任医師として検査技師と連携し、安心・安全な医療を提供できるよう努めます

**病理組織診断科部長
大沼 秀行**

適切な治療には正しい病理診断が必須です。今年度も真摯に取り組んでいきます

**精神神経科部長
挟間 玄以**

思春期から老年期までの幅広い年齢層の方が受診されます。初診日は、月・水・金です

**呼吸器科部長
久良木 隆繁**

田舎の医療と嘆くことなかれ、島根県中では世界最新の呼吸器医療をお届けいたします

**消化器科部長
藤代 浩史**

各科と連携をとり急性、慢性、悪性疾患まで幅広く、専門性の高い診療を行っています

**リウマチ科部長
永村 徳浩**

当科は各診療科と協力し、膠原病などの全身性免疫疾患を診療しています

**血液腫瘍科部長
吾郷 浩厚**

最新の治療を取り入れた専門性の高い診療ときめ細やかなサポートを提供できるよう努めます

**感染症科部長
中村 嗣**

今年度も各診療科と協力しながら感染症のコントロールに努めていきたいと思っております

**乳腺科部長
橋本 幸直**

フレッシュな女性医師も加わり、皆様のお役にたてるよう乳腺科スタッフ一同頑張っています

**整形外科部長
勝部 浩介**

救急外傷や運動器感染症が大多数を占めますが、慢性疾患も地道に取り組む所存です

**脳神経外科部長
溝上 達也**

脳機能モニタリングやカテーテル治療など、脳に優しい低侵襲な手術を心がけています



泌尿器科部長
川上 一雄

腎尿路系手術(腹腔鏡手術、経尿道的手術)、尿路結石、尿路感染症を担当しています



形成外科部長
岡本 仁

都会の専門家、専門施設と同じレベルの治療を提供できるように日々努力しています



皮膚科部長
辻野 佳雄

丁寧な説明と納得の治療を目指し、気軽に相談してもらえる環境作りに努めています



耳鼻咽喉科部長
木村 光宏

内視鏡治療を活用し、痛み・苦痛の少ない医療を目指し努力しております



救命救急科部長
新納 教男

救命救急センター外来は、救急科専門医が常駐しています。24時間365日、いつでも救急医が対応します



外科
片岡 幸三

1人1人の患者さんにあった最適な治療を提供させていただきたいと思います



外科
森岡 三智奈

地域の医療に貢献できるように頑張りますのでよろしくお願いいたします



外科
佐倉 悠介

明るく元気いっぱい頑張りますので、よろしくお願いいたします



脳神経外科
大庭 秀雄

島根県立中央病院の一員として山陰地区の医療に貢献できる様、一生懸命頑張ります



脳神経外科
松田 真伍

4月より赴任しました脳神経外科の松田真伍です。よろしくお願いいたします



小児科部長
成相 昭吉

お子さんの診療の際には『適切なより良い情報』をお伝えし、不安の軽減に努めます



新生児科部長
加藤 文英

小さく生まれた赤ちゃんが元気に成長できるように、日々診療しております

新任医師からの
ごあいさつ



放射線科
金崎 佳子

画像診断を通して、質の高い医療に貢献できるよう努めます



総合診療科
樋口 大

患者さんの立場に立った全人的な医療を提供できるように心がけます。よろしくお願いいたします



呼吸器外科
森村 祐樹

一人でも多くの呼吸器疾患患者さんに喜んで頂ける医療を提供できるよう精進致します



麻酔科
藤原 辰也

ER/麻酔/ICU/救急病棟とその周辺で一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします



麻酔科
八幡 俊介

鳥取生まれ、松江育ち、米子6年、出雲3年目。山陰制覇への道のりは長いですが



産婦人科
小野 瑠璃子

4月から島根大学から当院産婦人科に赴任しました。よろしくお願いいたします



小児科
南 憲明

地域の子どものために力を尽くしたいと思います。よろしくお願いいたします



総合診療科
竹谷 洋子

地域の皆様のお力となれるよう、精いっぱい頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします



神経内科
稲垣 輸史

県立中央病院の診療に役立てるよう一生懸命がんばります



神経内科
有竹 洵

島根で生まれ育ちましたので少しでも皆さんに恩返しができるようにと思います



消化器科
末光 信介

患者さんの心に寄り添った診療を心がけ、日々研鑽を積んでいきたいと思ひます



循環器科
安田 優

多々ご迷惑をおかけしますが日々精進してまいります。宜しくお願い致します

1.年次 初期臨床研修医のご紹介

新しく医師・歯科医となった初期臨床研修医・初期臨床研修歯科医18名が入職しました
よろしくお願いいたします

写真並び順

杉谷 坂田 黒小 清辻 山 杉 溝 吉 波 岸 齋 船
原 口 野 中 瀬 川 水 貴 川 岸 上 川 田 野 美 藤 木
太 洋 悠 健 苑 将 彩 一 敦 信 菜 悠 由 野 智 光 功
郎 樹 一 水 也 華 朗 子 之 菜 介 華 拓 也 子 寿 幸 匠
(歯科)





お役立ち情報コラム

減塩のコツ

昨年度2月26日（日）に開催した市民公開講座「はたらき者の心臓に思いをはせてみませんか」は大変ご好評いただき、終了後も資料が欲しい等のご要望を頂いています。そこで、市民公開講座の中からひとつ、減塩のコツをご紹介します！

日本人の塩分摂取量（1日あたり）

	目標値 推奨値	平均値 (H26年)
成人男性	8g未満	10.9g
成人女性	7g未満	9.2g
高血圧の方	6g未満	

目標値・推奨値：厚生労働省「日本人の食事摂取基準2015年版」、日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライン2014」より
平均値：厚生労働省「平成26年国民健康・栄養調査」より

塩分摂取量は、目標・推奨値オーバー！できること、自分の生活に取り入れられやすいことから始めてみましょう。



知ってますか？栄養成分表示の見方

せっかく塩分摂取量の目標値・推奨値を覚えても、加工品等の栄養成分表示には、「塩」の記載はないことが多いです。食塩相当量は、ナトリウム量から計算しましょう。この計算式で換算できます。

$$\text{ナトリウム量(mg)} \times 2.54 \div 1,000 = \text{食塩相当量(g)}$$



食塩相当量1g ≡ ナトリウム量400mg

- ① だしを効かせる
- ② 麺類のスープを残す スープには2~3gの塩分があります
- ③ 漬物は少量 浅漬けがおすすめ
- ④ 減塩の調味料を使う
- ⑤ しょうゆはかけるよりつける
- ⑥ スパイスで味にメリハリを 辛味や酸味でうす味を感じなくなります
- ⑦ カリウム食品を多く食べる
カリウムは塩分を排出します。野菜や果物に多く含まれます
- ⑧ 味噌汁は具たくさん 同じ塩分濃度でも減塩になります
- ⑨ 加工食品を控える 知らない間に塩分を摂ってしまいます
- ⑩ 薄味になれる 特に小さいころから薄味になれておきましょう
- ⑪ 食膳に調味料を置かない 塩分の追加をしないようにしましょう
- ⑫ 料理は温かいうちに 冷めると薄味に感じます

山形県西置賜郡飯豊町健康福祉課HPより引用

外来診療表 <一般・初診>

平成29年5月1日現在

診療科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総合診療科	○		○		○		○		○	
精神神経科	○				○				○	
神経内科	○		○		○		○		○	
呼吸器科										
消化器科	○		○		○		○		○	
循環器科	○		○		○		○		○	
リウマチ・アレルギー科	○			○	○				○	
血液腫瘍科	○		○		○		○		○	
内分泌代謝科	○		○		○		○		○	
外科	○		○		○		○		○	
乳腺科	○		○		○					
整形外科	○		○		○		○		○	
脳神経外科	○		○		○		○		○	
呼吸器外科					○				○	
心臓血管外科	○				○				○	
泌尿器科	○		○				○		○	
小児外科		週不定								
腎臓科	○		○				○			
形成外科		○			○				○	
皮膚科	○		○		○		○		○	
眼科	○		○		○		○		○	
耳鼻咽喉科	○		○				○			
歯科口腔外科	○		○		○		○		○	
小児科	○		○		○		○		○	
産婦人科	○		○		○		○		○	